様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月１６日現在

機関番号：３７１１４
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008　～　2010
課題番号：20520269
研究課題名（和文）中世異界夢文学と黙示文学との比較研究を基盤とした異界図像集作成

研究課題名（英文）Making a List of the Otherworld Miniatures Based on a Comparative Study between Apocalyptic Literature and Medieval Dream Visions

研究代表者　壬生　正博（ MIBU MASAHIRO ）
福岡歯科大学・歯学部　教授
研究者番号：30249784

研究成果の概要（和文）：平成 20 年度は、ロンドンの大英図書館、ランベスパレス図書館、オックスフォードのボドレイアン図書館等において、ヨハネによる黙示録の中世写本を閲覧し、本研究に必要な図像の掲載状況を調査した。また、ロンドンを拠点として本研究遂行の有益な資料を入手できた。これと並行して、平成 20 年度から平成 22 年度の研究期間中に、中世夢文学と黙示文学の主要作品における楽園（パラダイス）描写に焦点を当てて、それぞれの類似点、相違点等を詳細に比較研究を行い、中世の夢文学生成に至る史的潮流を考究した。研究の成果は、下記「４．研究成果」に示したとおりである。

研究成果の概要（英文）：I researched some medieval manuscripts of *Revelation* by St. John at the British Library, the Lambeth Palace Library and the Bodleian Library in 2008. The purpose of the research was to look into interesting and valuable miniatures of the manuscripts for my study. In London I got latest written materials on the miniatures of *Revelation* by contemporary scholars. Besides, another purpose of the study from 2008 through 2010 was to examine historical currents through a comparative study of otherworld narratives, mainly concerning paradise, between Biblical and apocalyptic works and medieval dream visions. The results of the study can be found in "4. Research Achievements" below.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学
キーワード：中世夢幻視文学、写本図像(細密画)、外典、異界研究、聖書、英米文学

１．研究開始当初の背景
異界(The Other World)研究家達、例えば、H.R.Patch(1950)、Alison Morgan(1990)、Robert Easting(1997)は、中世文芸の異界描

写の起源として、西洋古典、ユダヤ・キリスト教の古文書、ケルト文学との関連性等を指摘している。しかしながら、楽園、煉獄、地獄等の異界を描いた中世の異界夢文学(dream visions)が、キリスト教社会において12世紀から13世紀にかけて最盛期を迎えた事実を鑑みると、やはり聖書思想との密接な関連は無視できない。異界夢幻視文学の描写傾向は、聖書群の中でも特に黙示文学(Apocalypse)の描写と極めて関連性が強い。従って、夢文学と黙示文学との比較調査をより綿密に行うことによって、他の異界研究家達がまだ具体的に研究が及んでいない領域を開拓することができる。また、中世の写本図像や視覚芸術の調査研究を文献調査と平行して行うことにより、異界に対する更に深い階層意識を考究することができる。

２．研究の目的

中世の異界夢文学は、上述したように、黙示文学の流れを汲んで、中世において夢文学というジャンルを築いたと思われる。本研究は、異界夢文学と黙示文学の異界描写の中で、主に楽園の描写方法や構成要素を詳細に比較・分類し、両者の時代的関連性を調査することによって、中世の夢文学の形態を成立させた史的潮流を考究する。本研究で取り上げる予定の特に重要な作品は、黙示文学として、*Apocalypse of Enoch, Sibylline Oracles, Apocalypse of Zephaniah, Fourth Book of Ezra, Testament of Abraham, Testament of Moses, Apocalypse of Peter, Apocalypse of Paul* 等がある。そして異界夢文学から、*Furseus' Vision, Drythelm's Vision, St. Patrick's Purgatory, Tundale's Vision, The Revelation of the Monk of Eynsham, Thurkill's Vision* 等を挙げることができる。

これらの注目すべき作品を研究対象として、異界、特に楽園描写に関する史的変遷を考察し、異界夢文学の成立過程を究明する。更に、本研究の目的は、文献の記述内容と写本の図像との比較研究でもある。

３．研究の方法

中世夢文学と黙示文学の主要作品における楽園描写に焦点を当て、記述上の類似点、相違点等を詳細に比較研究してまとめ、中世の夢文学生成に至る史的背景を考察した。また、ロンドンの大英図書館、ランベスパレス図書館、オックスフォードのボドレイアン図書館、さらにケンブリッジのウフィッツ美術館等において写本もしくは写本のファクシミリを閲覧し、本研究に必要な図像のデジタル・イメージを入手し、文献記述との比較検討を行った。

４．研究成果

(1)海外における写本調査

平成 20 年度に行った海外調査では、以下の写本および複製（ファクシミリ）を中心に閲覧した。

①大英図書館（ロンドン）
- MS Add. 18633
- MS Add. 42555 (Abindon Apocalypse)
- MS Add. 38842　他

②ランベス図書館（ロンドン）
- Lambeth Apocalypse　他

③ボドレイアン図書館（オックスフォード）
- MS Auct D.4.17 (Bodleian Apocalypse)
- MS Douce 180 (Douce Apocalypse)　他

④ウフィッツ美術館（ケンブリッジ）
- MS Add. 317　他

上記の写本および複製を閲覧した結果、非常に興味深い図像を見つけることができた。これと同時に、現在、Nigel Morgan、その他の研究者達が、黙示録写本を入念に調査し精力的に複製を出版しているという新たな知見を得ることができた。一例を挙げると、*The Lambeth Apocalypse: Manuscript 209 in Lambeth Palace Library: a Critical Study*, Nigel Morgan(London: Harvey Miller Publishers, 1990)がある。

(2)聖書群におけるふたつのパラダイス概念

パラダイスは、地上に存在したエデンの園(*Gen.*2:8)から始まり、紀元前 2 世紀頃に生じた黙示文書を契機として、神との正しい関係にある義人の魂が永遠に住む天のパラダイスへと時代の経過に伴って徐々に変化した。従って、パラダイスを考察する際には「地上」と「天上」のふたつの概念を念頭に置く必要がある。

地上のパラダイスの形態的要素をまとめると、「エデン（歓喜の場所）」、「庭園」、「種々の樹木」、「生命の木」、「善と悪の知識の木」、「川（水）」、「黄金」、「芳香」、「宝石」等がある。天の主な形態には、「神の住まい」、「複数の天」、「神の玉座」、そして、玉座を囲む「天使たち」等も含めて考える必要がある。しかし、地上のパラダイスの記述要素は天上のパラダイスにも使用される傾向があり、時に両者は混同されて記述されるのもパラダイス描写の特徴のひとつである。

(3) 旧約聖書群のパラダイス観

旧約聖書正典、外典、偽典の諸文書の中で地上と天上を含むパラダイス描写は、預言書や黙示文書に多く含まれている。もちろん、

神のいる天界の基本的イメージは、他の多くの文書にも散見されるのは事実である。しかし、エデンの園と天界のイメージが融合されることによって、天の記述に具象性が増し、そして、エデンの園を援用した新たなパラダイス像が生じるのは、魂の救護と密接に関わる黙示文書の発生時期である。黙示文書の諸文書では、復活思想、メシアの降誕、終末思想、最後の審判、そしてエルサレム神殿の復活（新しいエルサレム）等が主たるテーマである。特にメシアは、諸強国によって破壊された首都エルサレムあるいは神殿の再建をもたらす神と同一の権力・威厳を保持しており、神の記述と同等の文脈の中にみられ、その結果、エルサレムは、パラダイス的な記述の特徴を強めるようになる。研究の結果、旧約聖書群においてパラダイスを想起させる描写は諸種の文書に見られるが、特に偽典 *Apocalypse of Enoch* は我々に多くの特徴あるパラダイス描写を呈示している。

(4)新約聖書群におけるパラダイス観

新約聖書時代になると、旧約聖書群の預言書や黙示文書の中で語られる新たなエルサレムのイメージは、救世主である Jesus の誕生にともない神の国としての観念がより濃厚になる。そして、Jesus は、死後の魂たちを裁く最後の審判の裁き手として、神の玉座の描写に言及されるようになる。新約聖書正典の中で特に注目すべきは John が記したとされる *Revelation* である。*Revelation* は、言うまでもなく黙示文書の代表的な文書である。この文書は、神の意志を Jesus が引き継ぎ、Jesus が天使を通じて John に黙示あるいは啓示したものである。

本研究では、13 世紀から 14 世紀にかけて数多く作成された写本 *Revelation* の図像にも言及することで多角的な考察を試みた。諸種の写本の中で、ランベス宮殿図書館が所蔵する 13 世紀のラテン語黙示録 Lambeth Apocalypse は、繊細で美しい図像を掲載しており、黙示録写本の図像例として本研究で取り上げた。また、図像間の比較のために、同じく 13 世紀に作成された Metz Apocalypse、あるいは Gulbenkian Apocalypse、その他の写本図像等にも言及した。項目は（i）Jesus の天の姿、（ii）神のパラダイス、（iii）神の玉座、（iv）殉教者の魂、（v）白い衣を着た群衆、（vi）ふたりの預言者、（vii）シオンの山、（viii）白い雲、（ix）小羊の婚礼、（x）第一の復活、（xi）最後の審判、（xii）天の都エルサレムという 12 項目に分けて解説した。これは、本研究の図像集作成の基本的な構造である。しかし、時間の都合上、この図像集作成の完成には至らなかった。今後の重要な課題である。

新約聖書正典、外典におけるパラダイス描写は、ほぼ天界と結びついており、Jesus Christ の光輝く姿は、天の都が光に充ち溢れている様子を如実に示していると言えよう。この視点に立つと、旧約聖書から新約聖書に至るまで一貫してパラダイスの観念が流れていると思える。即ち、*Genesis* に記された地上のエデンの園は、*Revelation* では、天の都エルサレムとして最後に天から降りてくるのである。

(5)中世の夢文学のパラダイス観

本研究では、異界描写の重要な作品群である ① *St. Patrick's Purgatory*、② *The Revelation of the Monk of Eynsham*、そして③*The Vision of Tundale* を中心にパラダイス描写の諸相を中心に考察した。これら三作品はそれぞれにパラダイスの異なる形態を記しており、聖書群との比較のみならず、中世におけるパラダイス観念の考察のためにも有益な作品である。①は二層形態のパラダイス（地上パラダイスと天上パラダイス）、②は三層形態のパラダイス、そして③は複雑な七層形態のパラダイスを呈している。記述内容は、同種の要素もあれば、異なる要素もあり、それぞれに独自のパラダイス観を呈している。これらの諸形態の描写を中心に聖書群との比較検討を試みた。

①*St. Patrick's Purgatory* の場合

St. Patrick's Purgatory の中英語版 *OM1* のパラダイス描写を中心に *OM2* 並びにラテン語原典等との比較検討を行いながら、作品のパラダイス描写の特徴を考察した。その描写には、本研究で取り上げた聖書群の描写との共通性があることがわかった。特に *OM1* の地上のパラダイスに描かれた"red gold"、そして *OM1* と *OM2* に共通して使用頻繁の高い"ioie(s)"「歓喜・至福」については、言語的な考察に立ち入って筆者の見解を示した。前者の"red gold"については、種々の先行研究があるものの、パラダイスという特殊なコンテクストから、「純金」として解釈すべきであろう。また、"ioie(s)"については、地上と天上のそれぞれの至福の要素を考察し、天のパラダイスにおける最大の至福は、至福直感および永遠性が異界的特徴になっている。パラダイス描写に伴うこれらの諸点は、本作品のみならず、他の夢幻視物語にも敷衍されるべきである。しかし、主人公 Owein は、地上のパラダイスには辿り着いたものの、天のパラダイスの内部へ入ることはなかった点も本作品の特徴である。

②*The Revelation of the Monk of Eynsham* の場合

Eynsham におけるパラダイス内の梯子や三層構造－即ち、地上のパラダイス、Jesus が

鎮座する天、そして、至高天の三層ーの天界などは、明らかに聖書群の記述との関連性を示している。これらは、創造主を頂点とするヒエラルキー(hierarchy)を基に区分されているとみなすことができよう。このような区分は Paul が自ら体験した第三の天(2Cor.12:2)と何らかの関連があると推察できる。主人公 Edmund は、異界へと導かれた後、パラダイス内に充ち溢れる光の様子、至福に充ちた魂や天使たち、あるいはパラダイスに鳴り響くベルの荘厳な音などの生彩な様子を体験する。このパラダイスの描写は、作品の大半を占める煉獄の重苦しい陰鬱さを払拭し、更に、苦難に充ちた現実世界に生きる読者に魂の救済や癒しをもたらしたのではあるまいか。

③*The Vision of Tundale* の場合

Tundale のパラダイス描写について考察を行った。本作品では、複雑な七つの天界の様子が描かれている。第一天には、Tundale に近づいて挨拶した聖人たちがいた。第二天には、金や宝石で造られた壁があり、敬虔な者たちが住む"bry・te pauyliones"(1893)「輝く幕屋」がある。第三天では、魂たちが楽器を奏でながら聖歌をうたっている。第四天では、天から光芒が降り注ぎ、そして、大樹があり、その下に天使のように輝く人々が住んでいる。第五天には、たくさんの宝石で装飾された壁がある。第六天では、天使の九つの序列に沿って並び、至高天である第七天では三位一体の様子が描かれる。異界描写の特徴として、まず、Tundale が先へ進むにつれて、前の場所とは比較できないほど輝き、香り、美しさ等が増すが、これは魂が完全性に至る階梯を示していると考えられる。また、天から降り注ぐ光の描写は特に印象的で、この光は生命の充足と深く関わっている。天使の階層は、天界が神を頂点とする秩序が保たれていることを示している。

以上のように、中世の夢文学に引き継がれた聖書の記述は、旧約偽典 *Apocalypse of Enoch*、新約正典 *Revelation*、新約外典 *Apocalypse of Peter* や *Apocalypse of Paul* とのパラダイス記述との関連が極めて強いようである。

(6)比較検討で気づいた点

夢幻視物語と聖書群との異界描写に焦点を絞った比較研究によって、いくつか気づいた点を指摘したい。

①中世の夢幻視物語は、聖書群の多くの要素を継承しながら異界描写を自由に拡張しつつ、読者に一層の興味を惹かせるものとなっている。

②聖書群、特に預言書や黙示文書では、エルサレムの再建という国家的、あるいは民族的な救済を主なテーマとしていると言えるが、夢幻視物語では、個人レベルの救済を主眼としているようである。例えば、騎士 Owein や Tundale 等は、聖職者ではなく、俗人である。しかし、異界での種々の経験を積むことで、聖人への道を歩むことになる。

③聖書群ならびに夢幻視物語を通じて、「光」の描写が印象的である。この光は、生命の根源を描写するひとつの表現方法であると言えよう。また、天界の色彩は「白」で表現される事例が目立つが、パラダイス描写の「白」と「光」は、同義として解釈すべきではあるまいか。つまり、「白」は「光」の色彩表現である。

④夢幻視物語では、音楽（聖歌や楽器）の使用が聖書群の異界描写よりも目立っている。恐らく、教会音楽が発達した時代の流れを受けたものと考えられる。

⑤聖書と夢幻視物語の人間観についてキリスト教思想の観点から言えば、人間は天において肉体と霊魂が一体となって完全な存在となる。従って、「天」は「生」そのものである。中世の夢幻視物語の天界の描写に"joye"の頻度が高いのは、この語が、生命の本来のあるべき姿を表しているからであろう。

⑥夢幻視物語では、異界は来世ーつまり、死後世界ーとして描かれている。この設定故に、主人公は異界で他界した家族、友人、あるいは知人と再会する。これは、夢幻視物語の重要な主題のひとつである。この視点から、夢幻視物語は作者の個人的な"faith"を基盤として創作されていると言えまいか。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計５件）

①壬生正博、ヨハネの黙示録』における異界描写再考、比較思想論輯－比較思想学会福岡支部、査読有、第 15 号、2008、53-84

②壬生正博、14～15 世紀の中英語翻訳 *St Patrick's Purgatory* のパラダイス描写についての一考察、比較思想論輯－比較思想学会福岡支部、査読有、2009、1-31

③壬生正博、15 世紀の中英語韻文 *The Vision of Tundale* におけるパラダイス描写について、比較思想論輯－比較思想学会福岡支部、査読有、2009、75-107

④壬生正博、異界研究の視点から見る聖書の夢や幻視について、地域健康文化学会論集、査読有、第１号、2009、13-37

⑤壬生正博、中世西欧の夢幻視物語における物語構成上の特徴について、地域健康文化学会論集、査読有、第３号、2010、17-29

〔学会発表〕（計１件）
①壬生正博、聖書における「夢」の諸相、地域健康文化学会第１回大会、2009、福岡市男女共同参画推進センターアミカス研修室

６．研究組織
(1)研究代表者
壬生　正博（ MIBU MASAHIRO ）
福岡歯科大学・歯学部・教授
研究者番号：30249784